

あおい目のこねこ

エゴン・マチーセン 作・絵

せたていじ 訳



福音館書店 1965年 1200円

青い目のこねこは、ねずみの国を見つけにでかけました。魚に道を聞いて笑われたり、黄色い目のねこたちに意地悪されたりしますが、こねこはへこたれず、ついにねずみの国へたどりつきます。ページ数が多く読み物のようですが、中は7つのまきに分かれており、筋は単純でスピーディに展開するので、小さな子も楽しめます。絵は黒と青と黄の3色のみで、大胆でユーモラスに描かれています。

赤ずきん

グリム〔作〕

バーナディット・ワッツ 絵

生野幸吉 訳

岩波書店 1978年 1700円



おばあさんのところへおつかいをたのまれた赤ずきんは、途中でオオカミに会い、道草をしてしまいます。その間にオオカミはおばあさんを食べると、おばあさんに化けて赤ずきんを待ちます。グリム童話の中でもよく知られているお話で、原作に忠実に翻訳されています。深い森の様子などが、巧みな色づかいで丁寧に美しく描かれています。

あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま

イ ヨンギョン 文・絵

かみやにじ 訳

福音館書店 1999年 1500円



おはりの上手なあかてぬぐいのおくさんが、うたた寝をしていると、7つの道具たちは、誰がおはりしごとで一番大事なのかを言い争い始めました。その声におくさんは目を覚まし、一番偉いのは自分だと主張します。しかし、おはりはみんなで作っていることに気が付き、より一層仲良くおはりにはげみました。韓国の昔話を基にしたお話です。韓国の道具たちが、美しい色彩で丁寧に生き生きと描かれています。